

平成30年度第1回経営委員会 会議の記録

日 時：平成31年2月4日（月）18時～19時

場 所：市立旭川病院外来棟3階 中会議室

出席者：

（内部委員7人）

子野日委員長，青木委員，齊藤委員，石井委員，一宮委員，一條委員，中村委員

（外部委員4人）

山下委員，古川委員，中島委員，神林委員

（事務局5人）

堀内事務局次長，俵医事課長，西村医事課課長補佐，山内財務係長，白川財務係主査

欠席者：（外部委員1人）渡辺委員

会議の公開・非公開：公開

傍聴者の数：0人

資 料：会議次第

資料1 委員名簿

資料2 平成30年度の取組と新年度予算案について

資料3-1 第3次中期経営計画における数値目標および収支計画表の見直し案

資料3-2 市立旭川病院 収支計画見直し説明資料①

資料3-3 市立旭川病院 収支計画見直し説明資料②

資料4 市立旭川病院経営委員会設置要綱

会議内容

1 開会挨拶

子野日委員長から開会挨拶を行った。

2 委員紹介

平成30年度から新たに委員となった古川委員を紹介した。

3 議題

（1）平成30年度の取組と新年度予算案について

委員長

事務局から資料の説明を願う。

事務局

（資料2に基づき説明）

委員長

質問や意見等はないか。

A 委員

企業債の借換えについては国や道から了解を得ているのか。

事務局

正式な書面はまだだが、借換えについて了解はもらっている。

A 委員

新電力は先日、北海道から撤退した企業もあって心配だが、企業数が減って選定が楽になる面もある。

(2) 市立旭川病院第3次中期経営計画における収支計画見直し(案)について

委員長

事務局から見直し(案)について説明願う。

事務局

(資料3-1(5P~6P), 3-2, 3-3に基づき説明)

委員長

質問や意見等ないか。

C 委員

建設改良費について、リースによる調達行っていないのか。

事務局

購入することで(企業債を起こすことで)一般会計から元利償還額の一部が繰り入れされるので、医療機器の購入は基本的に購入としている。ただし、リース契約でないと保守対応できないなど、やむを得ない場合はリースで調達している。

C 委員

リースはリース料率がかかるので長い目で見ればキャッシュアウトが大きくなる面もあるが、一般会計からの繰入金を圧縮する面で検討の余地はあるのではないか。

F 委員

市全体の財政を考える場合、繰入金の削減を検討する必要もあるが、一方で、繰入金の財源の一部は地方交付税で賄われるため、病院の会計および市の財政両面から総合的に判断し購入としている。

C 委員

承知した。通常の民間病院であればリースによる調達が一般的であるので確認したところである。

D 委員

借換えの話だが、高い利率で4.65%とのことだが96億円のうちのどのくらいの割合か。

事務局

96億円のうち約15億円が4.65%。それ以外にも様々な利率で借り入れている。

A 委員

借換えしたら繰入金も減るとのことが、これは一般会計の財源確保という面でも効果があるということか。全額交付税措置されているなら市役所としての効果額はないのか。

事務局

企業債の元利償還額に係る繰出金のうち6割は交付税措置されており、残りの4割が市の負担となっているため、市の財政面からみても効果的な取組と言える。

B委員

病床利用率82.9%とのことだが、平均在院日数はどうなっているのか。DPC上の入院期間Ⅱの範囲内で退院している患者の割合が少なければいい経営とはいえない。

事務局

平均在院日数は11.8日で対前年と比べても1日短縮している。入院期間Ⅱの割合は今は持ち合わせていない。

※後日確認したところ入院期間Ⅱ以内の退院割合はH30年12月末で58.7%であった

B委員

在院日数11.8日は当院とほぼ同水準であり、これなら入院期間Ⅱの範囲内で退院できている患者も多いはずで、おそらくⅢ以上は4割程度だと思う。いい水準であると思う。手術数の増の内訳はわかるか。

事務局

外科、胸部外科、眼科の件数が増えている。

委員長

以上、ご質疑なければこの見直し案について原案どおり承認ということでよろしいか。

各委員

(異議なし)

(3) 市立旭川病院第3次中期経営計画における目標値見直し(案)について

委員長

事務局から見直し(案)について説明願う。

事務局

(資料3-1(1P~4P)に基づき説明)

委員長

質問や意見等ないか。

B委員

平成32以降また赤字となる計画だが、黒字に転換するのはいつ頃と見込んでいるのか。

事務局

現在の計画上では入院棟の企業債の償還が終わる平成43年度から安定的に黒字化すると見込んでいる。

A委員

公立病院は不採算部門に繰入されているため、黒字になればその分繰入金も減るから安定的な黒字化は難しい。あとは本当にこの地域に5病院が必要なのかといった議論も今後必要となると思う。国の推計でも開業医は今後減少していくとしているが実際のところはどうかかわからない。

B 委員

救急車の内訳はわかるか。

委員長

主に内科系である。

B 委員

そういった意味では日赤や当院と棲み分けができていているということ。医業収益に対する材料費比率の割合は内科系を中心とする市立病院と医大では10%違う（高い）。

C 委員

経営指標（指標2-1から5）の他の自治体病院と比べてどうか。

事務局

平均よりは当院の方が悪い印象である。治療に高い薬剤が必要な血液内科があるという当院の特徴もある。

E 委員

日赤や厚生といった公的病院も含めると自治体病院の材料費と委託費が圧倒的に高いということがわかっている。

D 委員

平成32年度の会計年度任用職員は決定事項か。嘱託や臨時職員の人数が増えることによる費用増ではないのか。

事務局

会計年度任用職員の導入は市役所で決定されており、病院としてもやらざるを得ないので決定事項である。

委員長

以上、ご質疑なければこの見直し案について原案どおり承認ということによろしいか。

各委員

（異議なし）

（4）その他

委員長

その他議題以外で何かあるか。

A 委員

ゴールデンウィークの開院対応についてお礼を申し上げる。新聞報道などで意識が低いといわれているところもあるが、旭川市は率先して対応していただいた。感謝している。

委員長

以上で第1回経営委員会を終了する。